

第171回日本経営倫理学会・理念哲学研究部会 2012年10月例会議事録

部会長・宇佐神

日時：2012年10月1日（月） 17:00-19:00

場所：学士会館308号室

出席：山本、望月、西藤、古山、新川、宇佐神

欠席連絡：遠藤、竹内、長塚

1. 11月以降の例会日程の確認：

- ① 11月13日(火)17:00～19:00 学士会館 308号室
- ② 12月3日(月)17:00～19:00 学士会館 308号室
- ③ 1月7日(月)17:00～ 新年会、サイゼリア神保町店
- ④ 2月4日(月)17:00-19:00 学士会館 308号室
- ⑤ 3月4日(月)17:00-19:00 学士会館 308号室
- ⑥ 4月1日(月)17:00-19:00 学士会館 308号室

2. 議事：

- ① 西藤氏よりの提言の検討：理念哲学研究部会としての学会創設20周年に向けての提言（理念哲学研究部会の部会としてこれからの更なる研究取り組み等、部会員の皆様の夢と理想についての検討について）
上記報告を受けて、部会としての第一段階として、11月例会にて、出席者は、各自準備した文書により、日本経営倫理学会が、取り上げ対面すべき、「経営倫理の今日的課題」について自己の見解を開示することとした。
- ② SBE（米国経営倫理学会）その他海外の学会参加者の報告があった。西藤、古山両氏。
- ③ 和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）を20世紀後半展開したポストモダンの「コミュニタリアニズム（共同体主義）」との関連においてとらえるため、数回に分けて、取り上げることとし、次回までに、宇佐神が4・5回で捉え上げるための分担案の準備をする。

3. 本日の研究発表：（なお下記の発表関連の資料をご希望の場合は、メールでご連絡ください。）

- ① 古山：「米国企業の腐敗の実体」と題して、準備された文書により、米国における不祥事の取り扱いについて問題が提起され、それらが不祥事と断定しうるかについて疑義が提起された。
- ② 宇佐神：子安『和辻倫理学を読む—もうひとつの近代の超克』の「あとがき」を通して、子安氏の和辻理解について確認。そこで展開されている形で和辻を葬り去って良いか否かについて問題が提起された。
- ③ 新川：経営倫理学におけるカント哲学の現代的意義—「公開性」に焦点を当てて—12月に予定されている「研究交流例会」に備えて、準備された文書を通して報告、出席者より質疑や意見があった。

以上